

山脈の形成

日本列島を作り出した一連の地殻変動によって形づくられた南アルプスは、国内では数少ない火山活動ではなく地殻変動を起源とする山脈です。

約 200 万年前、人類の祖先が最初に現れた時期とほぼ同じ頃、地質活動が非常に活発な時期がありました。プレート運動により、1,500 万年以上にわたって海底に堆積していた高さ 2,000 メートルの泥と火山灰の層が押し上げられて南アルプスができました。

約 100 万年前には、南アルプスの高さはすでに 1,500 メートルに達していました。約 11 万 5000 年前に始まった氷期には、背の高い峰々は氷河に削られながら隆起し続け、背の低い峰々と周囲の地形は氷によって丸みを帯びて滑らかになりました。

南アルプスでは、氷河侵食によって作られた岩盤のくぼみや、地球の歴史におけるこの寒い時期を生き延びるために進化した動植物など、この遠い過去の時代の名残を目にすることができます。

空からの眺め

日本の国土の 70%以上を占める山岳地帯には、冬の深い積雪で知られる起伏に富んだ地形を持つ北アルプスや、その南に位置するやや小さい中央アルプスのように、火山活動によってできた山脈が数多くあります。空から見ると、南アルプスは北側にあるこれらの山脈とはまったく異なることがよく分かります。

北・中央アルプスに比べ、南アルプスはより幅が広く、何層にも折重なって一連の高い峰々を作り上げているように見えます。これらの高峰はどれも火山に由来するものではなく、毎年 4 ミリメートルという世界有数の速さで地盤を押し上げる地殻変動の力によって形成されました。

南アルプスのすぐ東には、一連の大地震を引き起こしてきた糸魚川静岡構造線という大断層線があります。この断層のすぐ東は、フォッサマグナという南北に走る巨大な亀裂があります。フォッサマグナの北東側が沈んだことにより、東京がある地域に広大な関東平野ができました。フォッサマグナの西側に沿って、一連の火山が日本海沿岸から富士山近郊、そして伊豆半島沿いから太平洋へと伸びています。

多数の高峰

日本で二番目に高い山である北岳は、南アルプスの至宝です。しかし、南アルプスにはその他にも 3,000 メートル級の山が 10 座あります。

- 間ノ岳、3189 メートル
- 悪沢岳、3141 メートル
- 赤石岳、3121 メートル
- 中岳、3084 メートル
- 前岳、3068 メートル
- 塩見岳、3052 メートル
- 西農鳥岳、3051 メートル
- 仙丈ヶ岳、3033 メートル
- 農鳥岳、3026 メートル

- 聖岳、3013メートル